まえがき

最近しみじみ思うのは年を取るというのは実に面白い。まず、社会に対しさしたる責任を負わなくてもよい。次に、その程度がどうであるかは別問題として、子育ての責任も終った。こうなると、世の中に対していかなる見栄も欲も張る事がない。

そういうと、いかにも怠惰な人間に思われるが、そんなことはない。要は自分勝手に結構忙しく過ごしているのである。

それでは昔からそうだったかと云うと、とんでもない、人一番の働き蜂だった(たぶん)。今から廿年以上前に現役を引退したが、私のサラリーマン時代は四つの会社を言うなれば転々とした事になる。それだけ堪え性もない人間だったかと云えばそれも当らない。むしろ、その頃流行りのモーレツ社員だった。その間経験したすべての仕事も好きだった。ただ、そこに勤める意味が無くなっただけである。

そもそも、会社等で働くと云うことは、大きく分けて二つの種類に分かれると思っている。

その一つは、会社等に働く事が自分の野望を実現するための手段であると考えている事、もう一つは働く事が夢の実現のための目的と考えていることである。

前者の場合は、目的のためには手段を選ばずの傾向があり、えてして人当たりも良く、誠に付き合いやすい人間が多い。

一方、後者の場合は、仕事や会社に対して斯くあるべしの信念を持っていて、場合によ

っては扱いにくい部類と入るかもしれない。
そのどちらに属する人間であったかと云うと、自慢にもならないが当然後者である。
ただ、仕事の中で知り合った人間のうち、今以ってこれはと思われる人は後者であり、それらは肝胆相照らす人たちであり、今以って付き合いが続いている。
つらつら考えるに、日本人は、昔からその人にあった職業と天職といい、能力や適性にあった天職を身につけるために努力してきたと云われている。
然るに、近頃はおのれの欲望を満足させるために、仲間を裏切ることも平気で行う輩が平然とまかり通るようになった。
今は、こうしたしがらみを一切断ち切り、天下晴れて自由の身になったと思っていて、これで面白くないわけがない。
ただ、昔から「小人閑居して不善を為す」とも云われ、この言葉は昔寺子屋などで使われた「四書」の中の「君子必慎其独也、小人閑居為不善」からきた言葉で、君子は独りでいる時に必ず慎み深くするが、小人は他人の目がないと悪い事をする、と云うことらしい。
今更不善を為しても始まらないので、今から十年ほど前にホームページなるものを立ち上げ、その中のコンテンツ「孤老雑言」に、時折々に心に浮かんだ雑言を月に一・二遍の割で掲載してきた物の中からセレクトしたものが本書の内容である。
文字通りの雑言であるが、もしかしたらこれが吾輩の懺悔であり、と云うことは書く事も無くなったときには六根清浄の域になるのではないかと虫のよい事を考えている。

仏法僧（ハンドルネーム）